

## 研究支援データベース J-CORES の現状について

Current status of J-CORES, a scientific data management system to collect and visualize science data acquired on Chikyū

# 海洋研究開発機構地球深部探査センター科学計画室情報管理グループ (SiO7) 松田 繁美 [1]

# Shigemi Matsuda Information Service Group, Science and Planning Department (Sio7), CDEX, JAMSTEC[1]

[1] -

[1] -

<http://sio7.jamstec.go.jp/index.html>

地球深部探査船向け研究用データベースの開発は、平成12年(西暦2000年)のコンセプト構築の時期にさかのぼる。その後、CompositeLogViewerやコア記載(VCD)機能を実装したプロトタイプが開発された。平成16年(西暦2004年)4月、このデータベースシステムはJ-CORESを命名され本格的開発が開始された。平成17年(西暦2005年)4月J-CORESの10のアプリケーションのうちコア計測データの登録に必要な基本アプリケーション4つ(Operation, Curation, Sample, Uploader)とデータの表示とコア記載を担う2つのアプリケーション(CompositeLogViewer, VCD)が完成しJ-CORESバージョン0.4としてリリースされた。同年8月、さらに深度補正(D-Tune)や複合層序学(Stratigraphy)用アプリケーションが加わりバージョン0.5に進化した。

地球深部探査船向け研究用データベースとしての基本的機能をすべて備えたJ-CORES 0.5は、その後、統合国際深海掘削計画管理組織(IODP-MI)の呼びかけによりアメリカの海洋科学掘削船JOIDES Resolution号での2週間に亘る詳細な船上試験を経て、平成17年(西暦2005年)11月に船上研究用データベースとして実際に「ちきゅう」に導入された。同年11月22~30日に実施された八戸沖残層掘削試験において、採取されたコアの分析データ11種類の収集と登録、さらにその表示とコア記載に使用された。今回の報告では本掘削試験で収集された実際のコア解析データとコア記載情報をJ-CORESの表示出力機能を使って紹介するとともにJ-CORESが実際のコア解析ワークフロー中でどのように使用されたか活用されたかを解説する。また、今後の試験ならびに開発計画についても紹介する。

